

川金コアテック茨城工場

免制震装置製造ライン増設

建築物向け開拓注力

40億円投資、生産能力1.5倍

川金ホールディングス（川金HD、鈴木信吉社長）の子会社で土木建築用機材の設計・製造・販売を手掛ける川金コアテック（本社＝埼玉県川口市、鈴木信吉社長）は約40億円を投じ、茨城工場（茨城県結城市）に免制震装置の製造ラインを増設する。太陽光パネルを撤去したスペースを活用したもので、経済産業省の「中堅・中小企業の質上げに向けた省力化等の大規模成長補助金」を受給する。すでに建屋の基礎工事に着手しており、2027年冬をめどに操業を開始する計画だ。

川金コアテックは川金グループの中核企業であり、橋梁用支承を主力とする構造物向け免制震装置を手掛けている。同社は橋梁向けに加えて近年は建築物向けへの新規開拓にも注力しており、採用実

験物倉庫棟を更新。自動塗装装置やローラーブラストマシン、自動裁断機やプレス機、クレーンなどを導入す

る。

一方、既設の免制震装置に対する維持・補修などメンテナンス需要が拡大していること

から、24年11月には共同建設を完全子会社化するなど、現場対応力を向上させており、「単なる免制震デバイスの供給者からトータルソリューションを提供できる会社に変革させる」（鈴木社長）方針。AI画像認識技術や、遠隔管理システムによる点検自動化も図る。

また、新設工場ですべてが完結するワンストップ化を図り、自動化・デジタル化で省人化と高い生産性の実現を目指す。

このほか、川金HDグループでは、油圧機器を手掛ける光陽精機（本社＝茨城県筑西市）が免制震ダンパー用ラインを増設し、铸造製品を手掛ける磯部鉄工（本社＝山口県下関市）が本社第2工場を新設するなど、グループ企業で事業拡大に向けた積極的な投資を実施している。